

教育支援センターだより

第33号 発行日 令和6年3月8日

子育てや家族、学校のことでも悩んでいませんか？



【子育てや成長・発達に関すること】

- ・ 反抗的になり接し方がむずかしい
- ・ 子育てに自信がもてない、子育てが不安
- ・ 落ち着きがなく、こだわりが強い

等

【学校生活に関すること】

- ・ 不登校のこと、登校しぶり
- ・ 勉強についていけない
- ・ 集団にうまく入れない、友達ができない

等

ひとりで悩まず、お電話ください

★ご相談の流れ

受付 ☎：60-1899
60-1922（相談専用電話）

- ・ お困りのことについて簡単におうかがいします。
- ・ センターに直接来てのご相談か、あるいは電話でのご相談かの希望をおうかがいします。直接来られる場合は実際に教育支援センターに来所される日程や時間を決めます。

電話相談

ご相談の内容によっては、お電話で終了する場合があります。

初回の相談

- ・ お困りのことについてさらに詳しくうかがっていきます。
- ・ おうかがいした内容から、見立てや教育支援センターでどのようなことができるか方針をお伝えします。

終了

ご相談の内容によっては1回で終了する場合があります。

- ・ フォローアップ
- ・ 他機関の紹介

継続して相談する場合

☆ 保護者の方とは…

お子さんについての理解を一緒に深めながら、保護者の方が責任と自信を持って子育てに取り組めるようサポートします。

☆ お子さんには…

カウンセリングやプレイセラピー（遊戯療法）を通して気持ちの安定をはかり、自分自身や自分の行動について理解を深めていきます。

*お子さんの理解をより深めるために、相談のなかで取り入れることがあります。

- ・ 発達検査、知能検査など
- ・ 医療相談（囑託医による）
- ・ 学校、病院など他機関との連携、連絡

相談の終了

教育支援センターでは、上記の教育相談支援の他にも、子どもと子育て家庭に対して様々な支援を行っています。

○スクールソーシャルワーカー【電話受付：60-1971 月～金 9:00～17:00】

小中学生の不登校や家庭の問題等の相談に対して福祉の専門職として学校訪問や家庭訪問、同行支援などを行います。

○チャレンジルーム【電話受付：56-2052 月～金 9:00～17:00】

不登校の小中学生が通う施設です。相談支援、学習支援、集団活動支援、進路指導などを行います。

○むさしのクレスコーレ【電話受付：60-1971 入室のご相談はスクールソーシャルワーカーへ。】

不登校の中学生が安心して自由に過ごせる居場所です。体験学習、個別相談、訪問支援を行います。

○帰国・外国人教育相談室【電話受付：54-8626 月～金 10:00～17:00】

帰国、外国籍及び国際結婚家庭の小中学生の日本語指導、言語サポート、学習支援、通訳・翻訳等の支援を行います。



★令和5年11月29日に開催した講演会の内容を要約して掲載いたします★
子育て中の保護者のみなさまに、お子さんの成長や発達を見守る上で参考といただければ幸いです。

日常生活で育まれる読み書きの力

～読み書きが苦手な子どもの理解～

後藤 隆章 先生

横浜国立大学教育学部 准教授

日頃、お子さんの読み書きについて気になっていることはありませんか？読み書きの力を育むためには机の前で勉強することも大切ですが、何気ない日常生活の中にもヒントがたくさん隠れています。今回は読み書きの力を身につけるためにご家庭でできる関わりをご紹介します。

<家庭でできる子どもへの関わりのポイント>

日常のやり取りや遊びはお子さんの学びに繋がっています。その経験/あそびを積み重ねることは、読み書きの学習（獲得）の土台になります。ぜひご家庭でお子さんに関わる際に、以下のポイントも意識してみてください。

◆ **家庭だからこそできることを優先しよう**

学校や集団ではできない、お手伝いやお金のやり取りなど。

◆ **本人が楽しんで取り組める活動を優先しよう**

本人の「これならやりたい！」を確認しながら学習をすすめましょう。

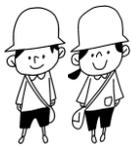
◆ **遊びの中で学ぶための土台をつくろう**

遊びのバリエーションが増えることは、学びのバリエーションが増えることに繋がります。興味・関心の幅が広がる機会を増やしましょう。



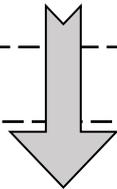
<成長に合わせた学びと関わり>

就学前と小学生以降では生活や教育の仕組みが違うため、就学前と小学生以降の経験の内容が上手く接続することが大切になります。スムーズな接続のため、お子さんの成長に合わせて、学びや遊びの参考にしてみてください。



就学前 …遊びを通じた総合的学習

環境やルール、興味、ことばのやり取り等、遊びを通じて経験を積み重ねていくことが目標の時期です。まだ読めなくても良いので、遊びの中で「おもしろそう」と、数や文字への関心を持てるような関わりを意識しましょう。



小学生以降 …「教科別」の学習

低学年：特に楽しむことを優先しましょう。

高学年以降：自分の状態と自分にあった学び方を認識していけるとよいでしょう。

「私は〇〇が苦手だけど、こうすればできる！」と、うまくいく学習方法が分かると前向きな姿勢を持つことができます。

< 読み書きの仕組みについて知る >

1. 文字と音の対応関係

わたしたちが生活で使う文字には、主に「かな/カナ」「漢字」「アルファベット」があります。世界的にみても日本のように、ひらがな、カタカナ、漢字といった複数の表記が混在しているのは珍しいです。そしてこれらは文字と音の関係が異なっています。



かな/カナ：文字と音の関係は1対1で、規則性が高い。例えば『あ』→「あ」という読み方のみ。
漢字：文字と音の関係は1対複数で、不規則。例えば『上』→「うえ」「かみ」「じょう」等。
アルファベット：単語によって変わる、文字と音の関係は1対複数。例えば『a』→「エー」「アー」等。

文字と音の関係という側面等で文字の特徴を考えていくと、①かな/カナ→②漢字→③アルファベット の順で読み書きを学習（獲得）しやすく、つまずきも現れやすくなります。

2. 読み書きの獲得に関わる3つの力

読み書きを獲得していくには様々な力が必要ですが、その中でも主に3つがあります。

音韻意識：単語がどんな音からできているか分析したり、操作したりする力。
視覚的弁別：形を捉えたり、形の違いを見分けたりする力。
例えば「め」と「ぬ」の違い等、見た情報が同じか違うかを区別する力。
語彙理解：知っていることばが多いこと。

これらの力の中に苦手さがあると、以下の点でつまずきが表れる場合があります。教科学習は集団のペースで進んでしまいますが、本人の読み書きの獲得の様子に合わせた学習を取り入れることも大切です。



読み書きの獲得の様子を把握するためのポイント

- ✓ かな/カナは獲得していても、特殊音節（拗音「^{とくしゅおんせつ}や・ゆ・よ」/促音「^{そくおん}っ」/長音「^{ちようおん}いもうと」「シール）」で苦戦する場合があります。
- ✓ 漢字が苦手な子の中には、カタカナの獲得が十分しきれていない場合があります。（カタカナは漢字の部品として使われています！）

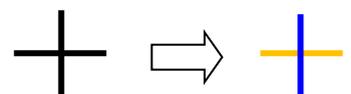
3. 本人に合わせた学び方を知る

聞いて覚える、絵に結び付ける、エピソードに結び付ける、ねんどを使う等…、自分に合った学び方を知っておくことで、アルファベットまで続く読み書きの獲得がスムーズになります。

- ひらがなを覚える為には、絵からどんな文字か思い出す方法があります。
例：“うし”の“う”といったキーワードを使う。



- 視覚的弁別が苦手な場合、色の条件を加えることで見えやすくする方法があります。
例：十字の線を色分けする。
（何本の線から成り立っているのか見えやすくする為）



「前はこうだったけど、今はできるようになったよね」と
個人の中の変化を知ると、大きな自信になります。

<読み書きに関わる力を育むあそび>

◇音韻意識を育む遊び

音（音韻）で感覚をつかむと記憶に定着しやすくなります。

- ・しりとり
- ・マグネットを用いて、言葉の音の数だけ並べる。
例：「たぬき」→  ※マグネットは多めに渡し、音の数だけ並べられるか確かめる。
- ・  (たぬき) → この中で「ぬ」の字はどれ？、2つ目の音を取ると何が残る？「たき」
- ・音の種類によって積み木を変えて並べる。
清音は積み木の○、促音は△、長音は□ 例：「ほっかいどう」→ ○△○○□



年齢に合わせた遊びの例は以下のようなものがあります。

就学前：八百屋のお店屋さん「やおやのお店に並んだ品物見てごらん」

→単語の音が2つの時に手を叩いてごらん、3つの時には手を叩かないよ等と条件を加えていく。

低学年：ぐりこ、どちらにしようかな

※動作とことばが一致できているかを見る。

高学年：すごろく→サイコロの代わりに、しりとりを使って言葉の数だけ進める等、条件を変える。

しりとり→必ず特殊音節を入れる、3文字にする等、しぼりをつける。

◇語彙理解を育む遊び

会話ややりとりを楽しみながら、語彙の理解に繋がる遊びをご紹介します。

- ・「私は誰でしょう？」(スリーヒントクイズ)

例：題材「犬」→①私は足が4本あります ②しっぽがあります ③ワンと鳴きます

問題を作る側、答える側それぞれを体験する。

- ・反対ことば探検隊→リズムに合わせてながら反対言葉を言う。

「右といえば→左」「明るいといえば→暗い」「狭いといえば→広い」

- ・だるまさんがころんだ→「だるまさんがべそかいた」「だるまさんが笑った」等

いろいろな動作を入れる。



少しでも「できた」「面白かった」等と達成感が味わえると、それ自体が成功体験となり蓄積され、ちょっとした失敗があっても、次は大丈夫というレジリエンス（抵抗力）が備わっていきます。家庭での日常のやりとりや遊びを通して、レジリエンスを高めていけると良いでしょう。

おすすめ教材：「NPO 法人スマイルプラネット」<https://www.smileplanet.net/>

無料で教材をダウンロードできます。

無断での複製、引用、ネットへの掲載などは固くお断りします。

問い合わせなどありましたら、下記までお願いいたします。

発行 武蔵野市教育委員会 教育部教育支援課 教育支援センター
所在地 〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町4-11-37
電話番号 0422-60-1899
0422-60-1922 (電話相談・FAX)